

6. 家計の状況と経済意識

6-1. 本人年収と月間小遣い(Q35,FS7)

【男性】

年収についてみると、【若年独身】は「300万円未満」が半数(51.1%)を占め、【継続独身】、【若年無子家族】に比べて平均年収は低い。

(平均年収:【若年無子家族】432万円 > 【継続独身】405万円 > 【若年独身】272万円)

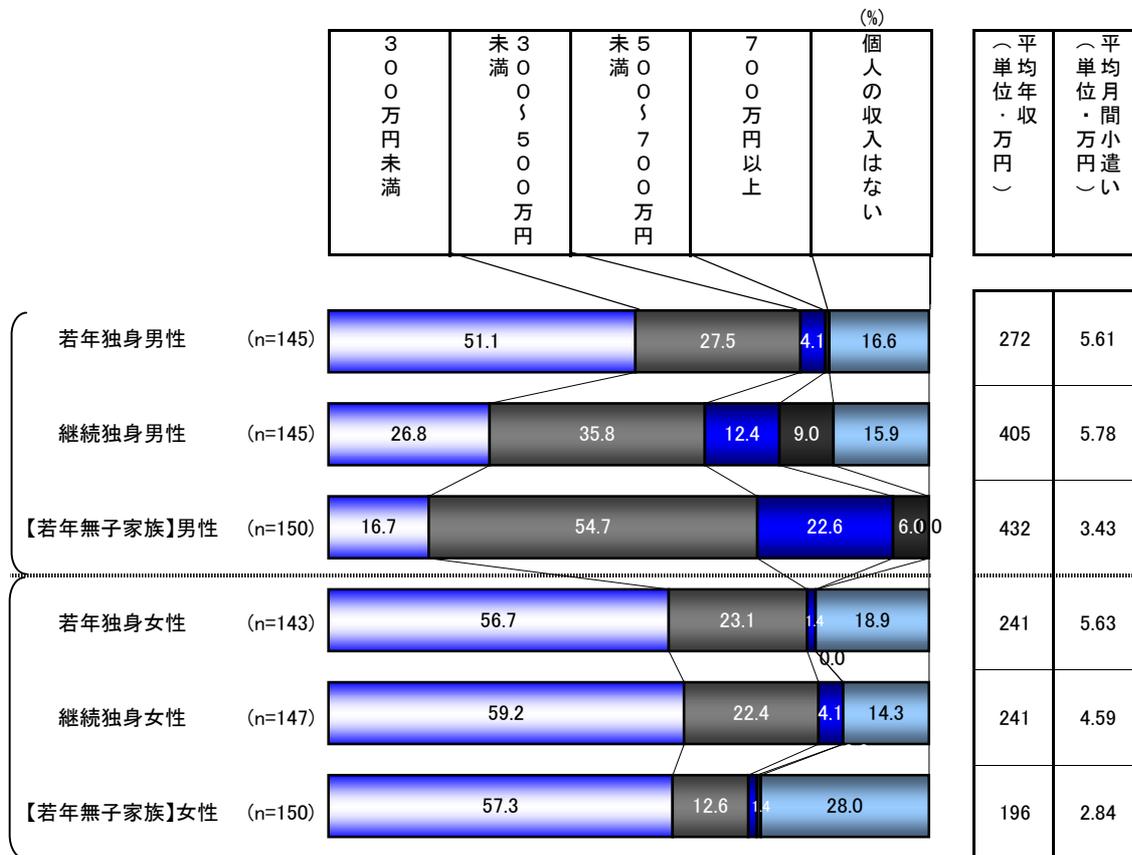
ただし、小遣いは独身グループの方が【若年無子家族】より高額である。

(月間小遣い平均:【継続独身】5.8万円 > 【若年独身】5.6万円 > 【若年無子家族】3.4万円)

【女性】

女性の本人年収はどのグループも「300万円未満」が半数以上を占め、平均年収は200万円前後となっている。月間小遣いは【若年独身】(5.6万円)が最も高く、【継続独身】(4.6万円)【若年無子家族】(2.84万円)の順になっている。

図表6-1. 本人の年収および月間平均小遣い(各単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



(注)平均は非勤労者, 無記入を除いて算出

6-2. 昨年と比較しての年収の増減および家計のゆとり(Q37.38)

6-2-1. 昨年と比較しての年収増減(Q37)

【男性】

【若年無子家族】と【若年独身】では、「増えた」が「減った」を上回っているが、【継続独身】では「減った」人の方が多い。

【女性】

女性の場合ほとどのグループも「減った」人が「増えた」人を上回っている。

6-2-2. 家計のゆとり(Q38)

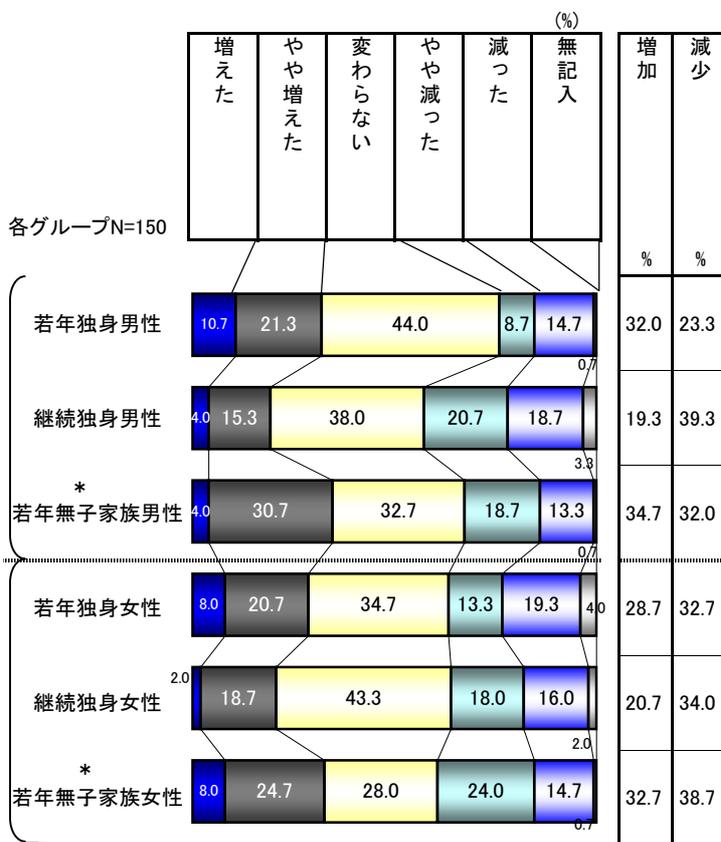
【男性】

どのグループにおいても「あまりゆとりがない／全くゆとりがない」と答える人が大半であるが、特に【継続独身】では「全くゆとりがない」と答える割合が高くなっている。

【女性】

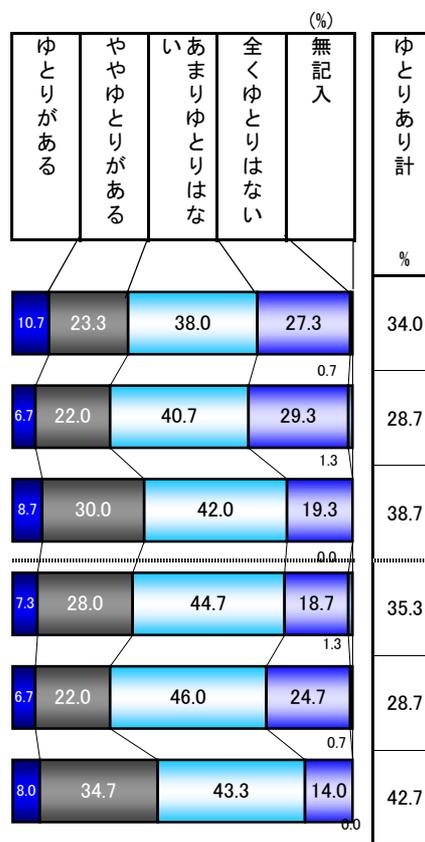
女性の場合も男性と同様の傾向がある。

図表6-2-1. 昨年と比較しての年収増減
(単数回答)(基数:全体)



* 既婚者は世帯年収

図表6-2-2. 家計のゆとり
(単数回答)(基数:全体)



6-3. 家に入れている生活費(Q40)

単身で暮らしている人の割合をみると、【継続独身】の男性が最も多く、3割近くを占める。

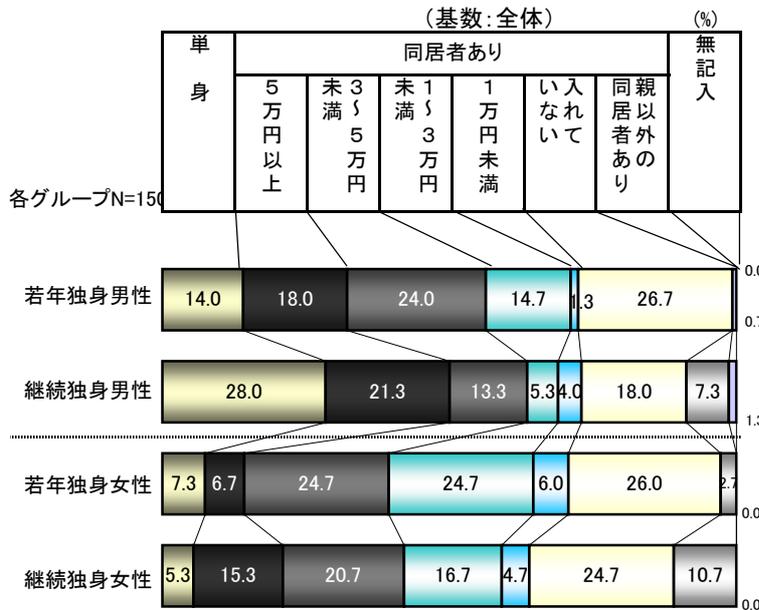
女性の単身者は【継続独身】でも1割に満たない。

親と同居をしている人に限って、家に入れている生活費の金額をみると、どのグループも7割前後が生活費を入れているが、「5万円以上」入れている人は多くない。

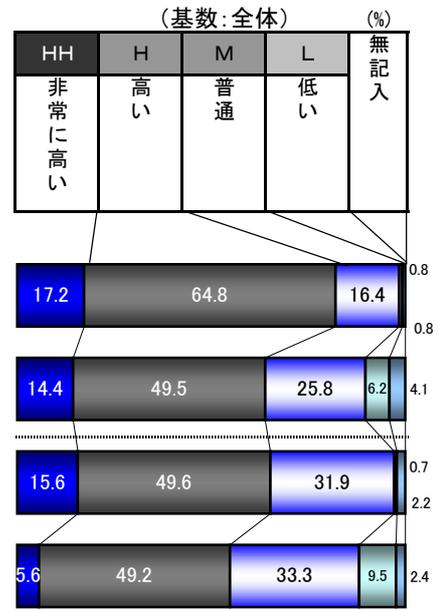
「3万円以上」入れている人の割合は女性では4割前後、男性では5割前後である。

女性の方が親に対する経済的依存度は高いが、家事の依存度と経済的依存度から親に対する依存度をみると、【若年独身】の男性が最も高く、【継続独身】の女性が最も低くなっている。

図表6-3. 家に入れている生活費(単数回答)



図表6-4. 依存度



図表6-5. 親と同居者の家に入れている生活費(単数回答)
(基数:親との同居者)

	n	以5万円	未3万円	未5万円	未3万円	未1万円	い入れてない	無記入
若年独身男性	128	21.1%	28.1%	17.2%	1.6%	31.3%	0.8%	49.2
継続独身男性	97	33.0	20.6	8.2	6.2	27.8	4.1	53.6
若年独身女性	135	7.4	27.4	27.4	6.7	28.9	2.2	34.8
継続独身女性	126	18.3	24.6	19.8	5.6	29.4	2.4	42.9

		家事の実行者		
		自分	両方	自分以外
い家に生活費	生活費3万円以上	L	M	H
	生活費3万円未満			
	入れていない	H		HH
	無記入			